

# 国際リニアコライダーの 東北誘致に関する要望

平成 23 年 7 月

東北加速器基礎科学研究会

国立大学法人東北大学

岩 手 県

宮 城 県

社団法人東北経済連合会

東日本大震災により、東北の経済・社会は甚大な被害を受けました。

現在、復旧・復興に向け、地域一丸となって懸命に取り組んでおりますが、新しい東北再生には、まだまだ多くの時間を要します。

今後、長きに亘って復興に取り組んでいくためには、ここに住むものが希望をもって前に進んでいけるよう、国の内外から人や企業をひきつけ、雇用を生み、東北人の誇りとなる国際的プロジェクトが必要と考えております。

幸い東北には、世界でただ1カ所建設されることが予定されております超大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」の建設適地とされる北上高地があります。

北上高地は、その地下に、ILC建設に必要とされる50kmにもおよぶ堅い花崗岩の岩盤があり、今回の大震災においても、その強固さが立証されております。また、この地は、盛岡市と仙台市の中間点に位置し、研究者が集うに相応しい研究立地環境に加え、周辺には快適な生活環境と都市機能を有する都市があり、東北大学をはじめとする優れた研究機関もあります。さらに、近年、モノづくりの集積も進みつつあるなど、ハード面ばかりでなく、ソフト面でもILC立地の適地と言えます。

こうしたことから、我々は、一昨年に域内の産学官に呼びかけて、「東北加速器基礎科学研究会」を設立し、ILCの立地環境および必要とされる都市機能等の整備に関わる調査を進めて参りました。

ILCは、素粒子物理の究明ばかりでなく、応用分野である医療、生命科学、情報通信、エネルギー等での先端的な研究開発の進展と持続的なイノベーションの場として、世界中からトップレベルの人材とノウハウが集積いたします。そして、そこで生み出された研究成果と先端技術は東北全域から日本全国へ、そして世界へと発信されます。

また、ILC周辺には世界中から優秀な研究者が集う国際的な研究都市が形成され、彼らの生活を支えるインフラ・施設建設等により、多くの雇用が生まれ、東北の復興と国際化が一段と促進されます。

民間の研究機関による試算においては、ILCの建設と研究都市の形成による一連の経済波及効果は、5兆円にも上るとされております。

加えて、高度な研究機材の供給や産学連携によるイノベーションの創

出等を通して、大手企業の進出や東北経済の中核であるモノづくり産業の活性化にも寄与することが期待できます。

まさしく、ILCは、国の復興構想会議が打ち出した“世界に開かれた復興”という方針に沿った東北復興の象徴的プロジェクトとなりうるものであります。

「東北加速器基礎科学研究会」としても、構成団体の一致協力のもと、ILCの立地受け入れ環境の醸成に一層強力に取り組むとともに、復興特区制度等も活用しながら、ILCの応用分野である先端医療や新エネルギー等の研究開発拠点の東北立地を図るなど、新しい東北づくりを推進して参る所存であります。

以上に鑑み、政府としても、ILCの北上高地への誘致により世界に貢献する科学技術計画に取り組むという意思表示をされるとともに、立地に必要な調査費等を早期に措置され、東北への誘致に向けて国を挙げて取り組んでいただきますよう強く要望いたします。

平成 23 年 7 月

## 東北加速器基礎科学研究会

国立大学法人東北大学 総長 井上 明久

岩手県 知事 達増 拓也

宮城県 知事 村井 嘉浩

社団法人東北経済連合会 会長 高橋 宏明